

空中給油機KC-130の鹿屋基地における訓練概要等に関する住民説明会概要

開催日時	平成27年7月12日(日) 18時30分～20時10分
開催場所	田崎地区学習センター
出席者	37人(田崎町17人、川西町9人、川東町2人、その他地区9人) ※報道関係者除く 防衛省、市政策推進課
主な意見等	<p>○ 上空の騒音は、数値的にほとんど変わらないと資料にあるが、飛び立った時の騒音を教えて欲しい。タッチアンドゴーは燃料を満載にして行うことになると騒音は大きくなるのではないか。日本と米軍と協議したことを、しっかりと守らせることができるか。</p> <p>→ 資料の数値は、あくまで目安である。値については、手元に資料を持っていないが、離陸直後、着陸寸前は高度がゼロに近くなるので騒音が大きくなることは承知している。</p> <p>騒音については、仮にローテーション展開訓練にご理解をいただいた場合、運用の実態をしっかりと把握し、騒音度調査を行う。日米の協議について、オスプレイの沖縄配備の際も日米合同委員会で、日本の法令を守ることを合意している。また、低空飛行訓練にあたっては、最低安全高度を守るようにしている。</p> <p>タッチアンドゴーは、岩国からKC-130から飛来するので、鹿屋基地ではある程度燃料を使用した後に行うことになると認識している。</p> <p>○ 給油するためのタンクを積んでいる状態でタッチアンドゴーを行うのではないか。資料の騒音の数値は、あくまでも目安で実情に対応したデータではない。</p> <p>→ 資料の数値は、騒音の最大値を示している。騒音は通常、低い音から高い音へ、そして低い音へと山型を作る。これをエネルギー量に換算した数値は、資料の数値よりも高くなる。騒音度調査は、この数値を基礎データとし、飛行コース、飛行パターンなどを考慮し、ある一定の計算式で計算し、うるささ指数が出てきて、コンター図を引くことになる。</p> <p>環境省の基準で決まっていて、通常は1年間、夏と冬それぞれ気象状況等も勘案して1週間程度実施する。実際、宮崎の新田原基地周辺において100カ所程度で計測している。</p> <p>○ 資料にあるルートがP3Cが飛ばないこともある。自衛隊でも出来ないことを米軍との間で約束できるのか。まず約束できないと思う。</p> <p>→ 基本的な経路については、鹿屋基地の管制に従う。P3Cは、基本的に資料にあるパターンで離着陸をするが、風の状況などの気象条件によって、この線上以外のコースを通ることがある。</p> <p>○ 訓練は夜の10時頃まで行うとなっているが、現在のP3Cも時々、早朝4時頃から訓練したり、夜も8時頃飛んでくることもある。</p> <p>鹿屋が訓練地に選ばれた理由の中で、地域住民の健康状態に触れていない。実際飛行する地区に住んでいないから騒音の実情が分からない。</p> <p>現在の自衛隊の騒音も限界にきている。その上、米軍の訓練をするのか。</p> <p>以前、騒音について基地へ申入れをしたら、騒音計を1週間つけてくれたが、その間は真上を通らなかった。</p> <p>→ 騒音計を設置したから、計測されないような運行しなさいという指示はしない。滑走路の延長線上にあるところを避けること自体が不安全であるので、今後も絶対にそのような指示は出さない。</p> <p>こちらに実際住んでいないが、ただ何回も出張でこちらに来ている。確かにすごい音がある。生活環境の面で負担をかけていることは認識している。ただ、米軍の訓練の必要性を認識していただき、なんとかご理解いただきたい。</p>

- 今回の訓練は米軍の訓練。なぜアメリカでせず、日本でしなければならないのか。沖縄の軽減負担というが、その負担を鹿屋にさせるのか。アメリカで訓練をする場合、住宅があるところで訓練をするのか。事故が起きる可能性のあるものを何故鹿屋でしなければならないか。アメリカは進駐軍という。進駐軍はアジアでは、日本にだけ来ているのか、韓国、フィリピンにもいる。そこで訓練をせず何故日本でするのか。
- アメリカの訓練を全て知っているわけではない。調べさせていただきたい。米軍がどこで訓練しているかも調べさせていただきたい。
- 普天間から岩国に移駐させた KC-130、これは沖縄の負担軽減の一環である。これをローテーション展開ということで、鹿屋とグアム、アメリカ本土にも訓練の一部を持って行く。市街地の中にある鹿屋基地なので、騒音の面で負担をかけることになるが訓練の必要性を認識いただきたい。
- 一部沖縄の負担軽減ということで、日本の航空自衛隊の6基地で、嘉手納の戦闘機の訓練移転がされている。
- 地上給油訓練で飛来するヘリコプター、オスプレイは、どの程度の頻度でやってくるのか。
- 月2回程度の訓練。2回ともオスプレイが来るか、1回かについては、調整中である。最大で2回ということになる。
- 訓練が終われば鹿屋ではもうしないということか。結果が良ければ常駐することになるのか。訓練は、1回行ったら終わりか。
- 常駐はしない。将来的にも常駐しない。月2回程度の地上給油訓練を行う。
- 騒音は、吾平の下名でもひどい。数値で示されてもよく分からない。訓練回数は、アメリカは守ってくれるのか。アメリカの訓練は、アメリカでやって欲しい。回数が○回程度といっても守られないのではないか。訓練全体が月20日ということは、土日を除いて、ほぼ毎日ではないか。天候悪化等の場合、米軍は基地の中で宿泊するということだが、宿泊施設は足りるのか。宿泊した際、鹿屋市街へ出てくるのではないか。施設整備の予定地には、掩体壕があったのではないか。これが壊されるのではないか。
- コンターの外でも騒音があることは十分認識している。ただ、防衛省としては75Wの中では住宅防音工事をさせていただくということである。環境基準では70Wということで、大変ご迷惑をかけていることも認識している。
- 訓練の中身については、資料のとおり協議して、一定の合意をしているので守らないということはない。訓練は、鹿屋基地の運用に支障がないことが大前提で、訓練の組み合わせによって少しでも回数を減らすなど工夫をしていくことになる。基地の中には外来の人が泊まる施設がある。米軍が長期滞在を考えているのであれば、施設を整備する要求が出てくると思う。自衛隊において、連続離着陸する場合の基本的なパターンは資料のとおりであるが、周りに航空機がいるなどの場合、変則的なパターンをとることがある。米軍も鹿屋の管制を無視して飛ぶことはあり得ない。現在、米海軍と仕事をしているが、少なくとも敗戦後の進駐軍に支配されているという意識ではなく、日本を守るパートナーとして行っている。
- 掩体壕がある場所は、今回整備される部分にはかかっていない。
- オスプレイで事故が最も多いのは着陸時である。鹿屋に飛来する時、どの位置から固定翼からヘリモードに変わるのか。
- どこで変換するのかということは、まだ話し合いにも入っていない。
- 離陸時の騒音データはすでに出来上がっているのか。もしないのならいつまで位に

できるのか。今後の住宅の騒音対策はどう考えているか。今は地元の人しか防音工事の対象になっていない。

→ 住宅防音対策は、騒音度調査をしっかりとやって対応していきたい。これまで同じような対策になる。告示後住宅という問題だと思うが、昭和 59 年の告示の際に住んでいた方が対象となっている。その後住まれた方は、対象となっていない。ごく一部地域ではあるが、様々な事情がある方、例えば高齢である方、身障者の方、親御さんが住んでいるところに子どもさんが戻ってきて家を建てるといった場合を告示後でも防音工事を行っている。今後どこまで広げられるか対策を考えていく。

○ 鹿屋基地では、年間 37,700 回の飛行訓練をしているとあるが、何か規定があるのか。また、今回の説明会の位置づけはどのようなものか。

→ この数字は、一番近々の数字である。飛行訓練回数は、毎年変動がある。制限等はない。必要な訓練については、時間が余ったからするといった余裕はない。住民説明会は、基地に近い自治会から始めさせていただいている。

○ 戦後の日本の平和を願って、この訓練は絶対反対すべきである。

○ この訓練は、鹿屋ですと決まっているのか。今から反対してもいいのか。この説明会の意見を聞いて、米軍の訓練についてどう思うか。事故があった場合の補償は、日本の税金が使われるのか、それともアメリカの税金が使われるのか。

→ 日米間では調整しているが、まだ決まっているわけではない。

厳しいご指摘をいただいた。今回お答えできなかった質問もあったので、しっかり調べて、丁寧に説明したいと思う。

事故があった場合の補償は、日米地位協定に明文化されており、その負担は日本が 25%、アメリカが 75%となっている。